

気象学会としては

- ① 今後の対応は「総合計画」の木田理事が担当する。
- ② プログラム委員会に委員を出し、気象関連のセッションを設けるよう働きかける。
- ③ 分担金はある程度負担する。

6. IAMAP について

理事長から次の説明があり審議が行われた。

会期：1993年に IAMAP を日本に招致する。

(このことについては1988年度の総会で決定している) 季節は8月である。期間は2週間程度

会場：開催地は東京が有力であるが京都案もあり決定していない。

主催：主催は学術会議と気象学会となるが後援は文部省、気象庁となるものとする。
(国際的には WMO と IAMAP.)

財政：財政的には学術会議からサポートを受けられるが、当学会としては多額の寄付金依存が必要となる。

作業委員会：学術会議気象学研究連絡委員会に IAMAP 作業委員会を設けた。メンバーとして浅井理事長、村上、中村常任理事、廣田、田中、菊地理事が入っている。

審議：1) 学術的な面からテーマを検討していくべきである。

2) 事務局として、東京開催の場合は気象研究所が候補の一つとなった。

7. 気象集誌

印刷・出版方式変更に伴う Editorial と編集規定の案を検討した。編集規定では、「気象学及びこれに関連する・・・」の関連分野の例記の内容を広げることとなった。

特に大気化学(物理)と、応用的論文を含むことを明示すべきだとの意見がでた。

8. 評議員会の議題について

正野賞, IAMAP, AGU について審議して頂くことにした。

編集後記：編集委員会では、本誌が会員の御期待にそうよう努力を続けておりますが、皆様の読後感はいかがでしょう。よい学会誌を作るためには、会員からのよい投稿に俟たなければなりません。編集委員会と会員間の意志の疎通を図ることも大切です。編集委員会から読者への呼びかけは、毎号の編集後記に書かれますし、各欄の担当者からの声は、本誌35巻(1988年)10月号の「天気投稿案内」に一括掲載されていますので、ぜひ御一読下さい。

編集委員会では、会員からの本誌に対する要望を知りたいと念じておりますが、その把握は容易ではありません。その一助にと35巻10号にアンケートの葉書を挿入いたしました。すでに数十通の貴重な御意見を頂戴しましたが、4000人を越す会員数からみて、会員全体のお考えを推察するにはまだ回収率が低すぎます。皆様の御希望を生かした会誌を作るために、ぜひアンケートに御協力下さい。

また会員の広場に寄せられた御意見は、できるだけ生かしたいと考えております。本号に掲載されている「天気に学生参加企画を」という提案も実を結んで欲しいと思います。

本誌に気象学の情報誌としての性格を持たせるといふ編集方針に則って、最近、1,2年の間に始めた企画は、おおむね定着したようです。そこで、近いうちに関連学会の紹介や用語解説の復活など、新企画を開始するため準備を進めております。また“本だな”をより充実させるようにとの要望も強いので、これにも対応策を考慮中です。

編集は手をかければかけるだけ、よい雑誌ができると言われています。編集委員や編集書記の方々の並々ならぬ努力の結晶が今日の「天気」となっていることを考えると、よりよい会誌を作るためにも、会員の皆様の一層の御協力をお願いしたいと思います。

(編集委員長)